

三鷹市立第七中学校 令和4年度【美術】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○筆や彫刻刀など、道具の正しい使い方・安全性を理解し、制作に結び付けることができるようになった。 ○色彩の知識や混色などの重要性を学び、色づくりや配色などを工夫できるようになった。 ○作品のアイデアなどを見たり聞いたりし、表現の幅を広げたり、作品に生かせるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に道具を扱い、正しく使うことでの作品の完成度などへの影響を理解させる。 ○色彩の知識は得たが、作品への生かし方や、混色の重要さの理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で正しい道具の使い方を徹底するとともに、素材の理解や作品への影響を理解させる。 ○混色や彩度調整の理解をし、作品への影響や効果の理解を充実させる。 ◎自分のアイデアをどのように表現するかを構想し、グループワークで話し合ったり、アイデアを練る機会を作ったりする。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○作品のアイデアをしっかり練り、自分の考えと素材の理解を結び付けて作品に生かすことが必要。 ○色彩効果と表現方法、道具の正しい使い方と作品への影響を考えられるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○色彩や混色方法に関して、しっかり理解している生徒とそうでない生徒の差が大きい。混色の重要性や色彩効果の徹底が必要。 ○基本的な技法などから、応用したり難易度の高い技法などに発展したりさせることができるようになってきた。 ○素材の扱いの理解が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○色彩の意識や混色の重要性の理解を充実させるため、彩度調整、色彩効果の再確認を授業および定期考査で行う。 ○タッチや立体的に表現するなどデッサンの技法を生かし、ドライポイントでの陰影や線描で立体感などを表現する技法をイメージさせる。 ◎作品のアイデアを練り、自らの意図と工夫・デザインと機能性の関連を考えさせ、アイデアをより良く作品に生かせる指導をする。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事や他科の授業などと関連付け、伝統的な美しさを感じる力が身に付いた。 ○定期的に行ってきたデッサンにより、立体的な感覚が身に付いたとともに、立体作品制作に生かすことができた。 ○半立体から立体の作品になった時、三次元での感覚が足りない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○立体の完成イメージを徹底し、油粘土によるマケット制作や、設計図の制作を充実させ、効率よく制作に当たれる指導が必要。 ○古美術に関する授業から、伝統的なよさや美しさを感じ取れるような指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業やレポート研究で学んだ伝統的な美しさを、作品に生かそうとする力を高める。 ○これまでの経験や技術を生かし、よりモチーフに迫る観察力・完成度を上げる力を身に付けさせる。 ◎これまでの制作や授業での立体作品の知識などを基に、作品のイメージを具体化し、アイデアスケッチを充実し立体作品の制作に当たらせる。